

# 和太鼓の音色 全国に響け



## コンクール向け猛練習

いすみ市の和太鼓集団「凧」が、20日に大分市で開かれる「第18回日本太鼓ジュニアコンクール」(日本太鼓財団主催)に向けて猛練習に励んでいる。12日には壮行会を兼ねた演奏会をいすみ市岬ふれあい会館で開く。

### いすみの演奏集団「凧」

凧は、地域の親子らが和太鼓体験に参加したのをきっかけに2001年に結成。チーム名には「凧をも止める元気と勢いある演奏を」という意味が込められている。

市川市在住のプロ和太鼓奏者TAKERUさん(39)が指導を始めた約10年前からめきめきと力をつけ始め、県大会は11年から5連覇中だ。全国大会となる同コンクールには08年に初出場した。連続出場ができない規定から、それ以降は2年おきに出場し、今回が5回目となる。

コンクールには、高校生5人、中学生と小学生2人ずつの計9人が出場する。編成は大太鼓3台、宮太鼓5台、締め太鼓4台、銅鑼1台。コンクールでは、課題曲「大和」と、自由曲「獅子」を披露する。

TAKERUさん(右端)の指導で、練習に励む凧のメンバー

がりを目指して追い込み中だ。練習が始まると、館内には耳をつんざく大音量が響き、床が揺れる。TAKERUさんは一人一人のそばに付いて指導したり、自らパチを持って演奏を聴かせたりして、熱心に教えている。

コンクールには、各都道府県の優勝・準優勝チームや海外招待も含め、55チームが出場する。1位の総理大臣賞など5位までが入賞で、6～15位の10チームは特別賞となる。凧はここ3回連続で特別賞に輝いている。TAKERUさんは「上位は本当に強くてうまい。凧は全員が同じポテンシャルで元気がつ繊細に演奏できるかが力ギになる。できれば取っていない賞までいきたい」と、高い目標を掲げる。

リーダーで幼稚園時代から13年の演奏歴を持つ高校2年の安藤美和さん(17)は「課題曲、自由曲ともだいぶ仕上がってきたが、まだ満足していない。大会では、自分たちの一つ前に地元・大分の強豪が演奏するので、気後れしないようしつ

探りたい」としている。かなり打ち切りたい。目標は5位以内です」と抱負を語った。



高所から駆け降りる広域緊急援助隊員(8日午前、柏市の県警第3機動隊で)

### 県警広域緊急援助隊 大地震想定し訓練

柏・第3機動隊で

東日本大震災からまもなく5年を迎えるのに合わせ、県警第3機動隊員らでつくる「広域緊急援助隊」は8日、柏市柏の葉の第3機動隊で、大規模地震を想定した災害対応訓練を行った。

広域緊急援助隊は特別な救助技術を持ち、大規模災害時に都道府県の枠を超えて活動する。車や、昨年の関東にも出動した。この日は約60人が参加。高さ18メートルの練習棟からロープを降りたり、負傷者を運んだりした。訓練後、責任者・第3機動隊長はいつ発生するかわからない。国民、県民を重ねてほしいと訓示した。

ライフ・バランス(WL)調査は2005年度から一した企業の割合も8・0%と平均より10%低かった。も明らかにになった。

マイボトルや飲料の提供が可やコンビニなど、ボトルやカップの場合、コーヒー